

弘前・岩木健康増進プロジェクト

短命返上へ15年目健診

味覚、肌・毛髪、疲労度加え2千項目



受け付け開始の午前6時半から、多くの住民が集まった=25日、弘前市中央公民館岩木館

弘前市岩木地区の住民1100人を対象に、健康に関する2千項目以上のデータを集め、健康施策に生かす弘前大学の「岩木健康増進プロジェクト」の健康調査が25日、同市中央公民館岩木館・岩木文化センターで始まった。15年目の今年は「味覚や肌・毛髪」「疲労度」などの新しい項目を加えた。6月3日までの10日間、健康寿命延伸に向けた調査・指導を行う。

(菊台賢)



住民(手前)の肌の潤いの状態を調べるスタッフ=25日午前

同プロジェクトは2005年度から始まり、13年度には、国のCOI(革新的イノベーション創出プログラム)に採択された。調査スタッフは約300人。弘大のほか、弘前市、県総合健診センター、民間企業などから集まった。1日100人程度の住民を対象に健康チェックを行う。25日午前6時すぎから、若年層から高齢者まで住民が次々と会場に集まり、内臓脂肪、骨密度、野菜摂取の状況、嗅覚、認知機能などの検査を受けた。プロジェクトには県外大

手企業も参加。花王は、皮脂や角質の状態などを測定し、生活習慣が毛髪・肌に与える影響を調べた。ハウス食品はアンケートを通して味覚調査を実施。同社研究開発本部基礎研究部の小濱佑介さんは「地域の人と対話できるので貴重な経験。ありがたい」と語った。第1回から参加している神良子さん(71)は「この健診があるから元気でいられる」と笑顔。肌の潤い度チェックを受けていた女性(53)は「関節のレントゲンや髪の状態などを調べてくれて、自分が知らない自分がかかるようで興味深い」と話した。プロジェクトのリーダー

中隆重之弘前大特任教授は「産官学民が力を合わせたプロジェクトは全国から注目されている。人の役に立てるよう、さらに押し進めていきたい」と語った。